令和８年度　京都府立農芸高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）　計画段階

学校経営方針（中期経営目標）

1 スクールミッション（社会的役割等）
京都府の農業に関する専門学科の基幹高校を京都府立大学の系属高校として位置付け、連携を深化しつつ、関係機関や他の大学と連携しながら実践的・総合的な探究を重点的に取り組むことにより専門性を高め、京都府の農業及び関連産業の振興に資する人材を育成するとともに、人間と自然との共生を図るスペシャリストを育成する。

2 スクール・ポリシー（三つの方針）
(1) 育成を目指す資質能力に関する方針（このような力を育てます）
・質実剛健の気風を培い、何事にもあきらめず、粘り強く挑戦し続ける力を育てます。
・生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を育てます。
・本校で培った知識・技術を活かし、社会の発展に寄与する力を育てます。
・夢と希望を持ち、自ら考えて行動し、他者と協働しながら主体的に課題に向かう力を育てます。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（このような教育活動を行います）
・府立大学の系属校として、大学との高度な連携をはじめ、地域や関係機関とも連携することで質の高い専門分野の教育活動を行います。
・社会人基礎力の向上と農業のスペシャリスト育成を目指し、学年の枠を超えた各コース縦割りを軸とする活動を行います。
・体験的・実践的な学びを科学的根拠に基づいて考える教育活動を行い、その成果等を積極的に発信します。
・専門学科としての特徴的な学びである体験的・実践的な学びを通して、学習意欲を高める教育活動を行います。

(3) 入学者の受け入れに関する方針（このような生徒を待っています）
・知的好奇心や科学的探究心を持ち、意欲的に専門分野の学習に取り組みたいと考える生徒
・自らの目標を設定し、主体的に学習に取り組むことができる生徒
・自らの課題に向き合い、本校の環境を活用して成長し続けようと考える生徒
・常に周囲への敬意を忘れず、人や自然と良好な関係を築こうとする生徒

評価　A　十分達成できている。(目標以上の成果が得られた
　　B　ほぼ達成できている。（ほぼ目標どおりの成果が得られた。）
　　C　達成できているとはいえない。（成果はあったが目標には達していない。
　　D　ほとんど達成できていない。（ほとんど成果がなかった。）

前年度の成果と課題

1 成 果
(1)主体的・対話的で深い学びの推進と学力の定着
全ての授業・実習において、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善に取り組み、基礎・基本の定着と学力向上に努めた。また、分野別説明会や外部機関と連携した進路ガイダンス等を計画的に実施し、生徒一人ひとりの進路意識の向上と希望進路の実現につなげることができた。

(2)安定した学校生活・寮生活の維持
学年部、分掌、寮務部が連携し、面談や情報共有を通して生徒理解を深めた結果、大きな混乱のない落ち着いた学校生活及び寮生活を維持することができた。

(3)専門性を活かした実践的・体験的な学びの充実各学科・コースの専門性を活かし、地域や関係機関と連携した教育活動を積極的に展開し、農場 HACCP 及び GLOBALG.A.P.の継続認証、農芸祭、農業クラブ学習成果発表会等を通して、農業専門高校としての特色ある教育活動を推進することができた。

(4)高大連携の推進
京都府立大学の系属高校化に向け、大学及び関係機関と連携を図りながら、高大連携の取組を進めることができた。

(5)情報発信・広報活動の充実
ホームページや SNS を活用して、生徒の学習活動や活躍の様子を継続的に発信するとともに、学校説明会や中学校訪問等を通して広報活動を行い、本校の教育活動への理解促進に努めることができた。

2 課 題
(1)学校の魅力発信と志願者確保
(2)ICT を活用した学習活動の深化
(3)組織的な生徒支援体制の強化
(4)主体性を育む自治活動・部活動の活性化
(5)高大連携の体系化と校内共有

本年度学校経営の重点(短期経営目標)

1 学校経営主題　「ともにつくり、ともに挑む ～挑戦・協創・創出～ 学びが広がる、チーム農芸」

2 学校経営の重点事項
(1) 京都府立大学との高大連携を核とした教育活動の推進
①京都府立大学の系属高校としての位置付けを踏まえ、高校・大学双方の教育資源を活用した高大連携プログラムを体系的に構築する。
②大学教員や大学・大学院生との交流、大学施設等を活用した体験的・探究的な学びを通して、生徒の学習意欲及び専門性を一層高める。
(2) 学力向上（高大連携を生かした授業改善）
①主体的・対話的で深い学びを基盤とした授業・実習を全校で実践し、基礎学力の確実な定着と学力向上を図る。
②観点別評価の趣旨を踏まえ、生徒・保護者にとって分かりやすい評価と指導の一体化を推進するとともに、授業改善に活かす。
③学習用端末を効果的に活用し、高大連携の視点も取り入れながら、生徒一人ひとりの理解度や特性に応じた学習支援を充実させる。
(3) 農業に関する専門教育の充実
①各学科・コースの特色を生かし、ACCESS を軸とした実践的・体験的な農業教育を体系的に展開する。
②農業クラブ活動におけるプロジェクト研究を中心に、探究的な学習を充実させ、各種発表会や大会への積極的な参加を通して専門性を高める。また、令和 9 年度全国大会に向けた準備を進める。
③高大連携を通した専門的な知識・技術の学習機会を生かし、実学と理論の融合による質の高い専門教育を推進する。
(4) 希望進路の実現
①3年間を見通した進路指導を行い、高大連携の特色を生かした進学指導や資格取得支援を通して、主体的に進路を選択する力を育成する。
②家庭との連携を重視し、学年部・進路指導部を中心とした校内連携体制の下で、きめ細かな進路支援を行う。
③関係機関との連携を通して、京都府の農業及び関連産業の担い手育成に向けた取組を推進する。
(5) 組織的で継続的な生活指導と豊かな人間性の育成
①家庭や関係機関と連携し、生徒の状況に応じた組織的な支援体制を確立し、安心・安全な学校生活及び寮生活を実現する。
②部活動や自治活動を通して、生徒の主体性、協働性、責任感を育成する。
③人や自然への敬意を大切にし、社会の一員として望ましい行動ができる態度を育てる。
(6) 人権教育・特別支援教育の推進と安心・安全の確保
①感染症対策に継続して取り組み、自他の人権と生命を尊重する実践力を育成し、良識を持って多様性を理解し、共生社会を生きる姿勢を醸成する。
②特別な支援を要する生徒の教育ニーズを把握し、関係機関と適切に連携すること により、組織的に合理的配慮を提供するなど、特別支援教育を推進する。
③全ての教育活動において安全の確保を最優先とし、危機管理意識を持って、組織 的に事故等の未然防止に努める。
(7) 地域から信頼される開かれた学校づくりの推進
①日頃の学習成果を発表する機会を積極的に設定し、生徒の活動する姿を広く発信 することで本校の魅力を理解していただき、地域からの信頼を高める。
②報道機関等へ教育活動情報を積極的に発信するとともに、中学校との適切な連携 により募集定員を充足する志願者の確保に努力する。
③保護者アンケート等により教育ニーズを的確に把握し、その結果等を学校運営協 議会等で協議し改善に努める

分掌／教科名	評価領域（業務領域）	重点目標	具体的方策（実践項目）	評価		成果と課題
管理職	組織運営	分掌間、教科間の連携・協働の推進	・教職員がそれぞれの個性や強みを生かしながら協力し合い、分掌・教科間の連携を深めることで、新たな教育活動に挑戦する「チーム農芸」を創出し、本校の教育目標の実現につなげる。			
		農業に関する専門教育の充実	・各学科・コースの特色に応じ、ACCESSを軸に実践的で体験的な農業教育を展開する。また、府立大学系属高校として、大学との連携を通して、より一層、高度で質の高い学びと体験的・実践的な学びによる実学との融合を図り、生徒・教職員と学生・大学教授等との交流を図る。			
		地域から信頼される開かれた学校づくりの推進	・生徒の主体的な活動の様子を積極的かつ継続的に発信することで本校の教育活動への理解を深め、地域からの信頼を高めるとともに、保護者アンケート等により教育ニーズを的確に把握し、学校運営協議会での協議や中学校・関係団体との連携を通して、志願者の確保につなげる。			
事務部	教育環境	効果的な予算執行	・各分掌の執行状況を把握し、効果的な予算執行となるように努める。 ・高騰する経費の推移を見極め、財務視点を踏まえて分掌と連携する。 ・旅費の更なる計画的な執行に努める。			
		生徒の就学状況における連携	・世帯状況の変化や支援制度の利用について、担任との連携を深める。 ・諸費、寮費の納入状況を各コースの取組に反映させる。 ・経済的な側面から、就学支援の関りを引き続き強化する。			
		学校施設設備の維持修繕	・老朽箇所について、引き続き担当課と連携を進める。 ・計画的に修繕対応し、施設の長寿命化に努める。 ・大規模な懸案事項について担当課との協議を進める。			
教務部	学習指導	学力の向上を目指した取り組みの推進	・「授業開始時の五箇条」の徹底をはじめ、授業時間の規律確保に努めることで個々に充実した学習時間を過ごす環境を整える。 ・基礎学力の定着や、学習意欲向上を目指したアプローチを実施する。 ・学習集中期間を設定し、学習意欲向上を目指した雰囲気作りをする。 ・朝読書週間を設定し、学びに向かう土台作りをする。			
		農芸高校の新しい学びに向けた取り組みの推進	・農芸高校の魅力を発信できる授業・学校行事を設定する。 ・「農芸高校の魅力化」に向けた授業・学校行事の在り方について、分掌・教科と連携して検討を進める。 ・令和7年度に実施した授業アンケートの「あなたはタブレット（iPad）を活用して学習していますか」という質問に対して、活用できている生徒が73.72%であった。令和8年度については、活用できている生徒の割合が増加するように働きかけをする。			
		教育活動を活性化させるための環境整備の推進	・観点別評価及びBYODの安定した運用と効果的な活用方法を推進するため、情報収集と共有を推進する。 ・情報機器の適切な整備・運用や校務システム等の効果的な活用を推進する。 ・スリムで効果的な学校行事を計画・調整する。 ・学校図書館の効果的な活用方法の検討と情報発信を推進する。			
連携推進部	系属校推進業務	高大連携の実施と、積極的活用の推進	・昨年度、実施した1、2年生を対象にした高大連携をブラッシュアップしていき、生徒たちがより農学に関して興味を持つことができる機会としていく。さらに京都府立大学との連携活動を一層推進していくために、校内の各分掌・学科・コースと京都府立大学の調整役としての業務を行う。			
		改編推進会議の円滑な運営と加速化	・改編推進会議を運営を取りまとめ、本校が系属高校としての新たな教育実践の加速化を図っていく。またその際に、多くの分掌が連携し動くことができるような形をを作っていく。			
	情報発信生徒募集	教育活動の魅力化と活発な情報発信とミスマッチのない生徒募集	・ホームページ・SNSの更新、オープンスクールや中学校訪問などで、本校の教育活動やその魅力を広く発信する。それにより本校で学びを進めたいと考える生徒を募集し、より学習活動が活気を持てるものにする。			
生徒指導部	生徒指導	学年や各分掌を横断する生活指導と社会人基礎力を育む指導	・学校全体で生徒の成長を一貫して支援し、発達支援的生活指導と問題解決型の生徒指導を推進する。 ・日常の生活指導を通じて、主体性や責任感などの社会人基礎力の育成を図る。			
		規範意識の醸成	・学習活動を通じて、行動規範や約束を守り、責任ある行動ができる態度を育成する。また、いじめ等の問題行動の未然防止に努めるとともに、指導件数については10%の削減を目標とする。 ・集団生活や協働的な活動を通じて公徳心や他者への配慮を身につけ社会の一員として適切に行動できる力を養う。			
		豊かな人間性の育成	・学習をはじめ、任せられたことを最後までやり遂げる経験を通して、達成感を味わわせ、自己有用感を高める。 ・部活動や自治活動に積極的に取り組む姿勢を育むとともに、他者と協働し、多様な人とつながる力を育成する。あわせて、部活動継続率（延べ人数割合）については、80%以上の水準を維持する。			

進路指導部	進路指導	各学年の状況に合わせた段階的なキャリア教育を推進し、社会人基礎力を育成する。	・日々の指導に加え、進路ガイダンス、インターンシップ、外部連携、「3年生の話を聴く」、外部講師の活用などを通して、マナーや職業観を身に付けさせる。またclassiを保護者・生徒への情報提供・各種連絡・学力向上におけるツールとして、引き続き有効活用していく。			
		大学等への進学後を見据えて、学力の向上に向けた取組を推進する。	・基礎学力補習への積極的な参加を促し、一般常識を始めとした基礎学力の充実を図る。また、四年制大学進学希望者（特に京都府立大学系属校枠）については、実用英語技能検定（英検対策講座）、進学セミナー、学習合宿、外部模試を通じて実力の把握と対策を意識させる。			
		進路情報を分掌間で十分に共有し、学校全体で一体感のある進路指導を実現する。	・生徒（保護者）の希望進路実現のため、学年部・進路指導部・学科・コース・分掌・教科等で得られた情報を、滞りなく情報共有する。また組織的な役割分担を通して、ミスマッチの無い進路指導を目指し、生徒の自己決定による進路実現に繋げる。			
保健部	保健指導	自分の身体に関心を持ち、健康を意識した生徒の育成を図る。	・生徒一人一人が自らの体と心の健康に対して正しい知識を身につける。 ・生徒が自分に必要なものを判断し、事前に準備するなど自己管理能力の向上を目指す。 ・3年間を通し計画的な保健学習を検討することで、取り組みの充実を図る。			
		特別支援教育の充実を図る。	・特別支援教育についての正しい理解と認識を深め、生徒に対する的確な理解と情報共有に努める。 ・特別支援教育会議を有効に活用し、学年・寮・他分掌との連携を密にする。 ・支援を要する生徒に合理的な配慮等が適切に施せるよう、スクールカウンセラーや地域支援センター、学び生活アドバイザーなどとの連携を図ると共に、学年担任の負担を少しでも減らせるようサポートを行う。			
		清潔で衛生的な学習環境を整えるため、環境整備に努める。	・安心安全な環境の維持のため校内の安全点検を定期的に実施する。 ・清掃活動の活性化や精選、保健委員の積極的活用など校内美化の更なる改善を進める。 ・大掃除や一斉美化作業の計画的実施や日々のゴミ分別の徹底など、校内美化に対する意識の向上を図る。			
農場部	農場管理 農場運営	実践的で体験的な農業教育の推進	・各担当と連携し、計画的・実践的で円滑な農場運営を行う。 ・京都の農業と環境を支える担い手の育成を目指す。 ・安全衛生教育の観点から、実験・実習時の事故防止を徹底する。			
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	・各種発表会・競技会での入賞や、資格取得・各種コンテスト・地域連携事業などを通してクラブ員が活躍できる場を提供する。			
	担い手育成	関係機関と連携した担い手育成の推進	・京都府立大学との連携協定を具体化する取組みを一層推進する。 ・府立高校特色化事業や京都府関係機関各種事業を活用し、将来の地域農業の担い手を育成する。			
寮務部	寮教育 寮運営	学習時間を活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。	・寮生活と学習を密着させ、学習習慣を定着することによって学力向上を図り、進級・進路実現につなげる。また、これによって自己有用感の高揚ならびに自己実現に向けて努力する態度を育成する。			
		社会人としてふさわしい生活習慣の確立と規範意識・人権意識の醸成を図る。	・自発的なあいさつと生活規則の遵守を定着させることで、コミュニケーション力を高めるとともに、規範意識・人権意識の確立を図り、社会人基礎力を育成する。また、寮生集会や寮行事、綱領の唱和を通じて寮生の結束と農芸高校への帰属意識を高める。			
		「協同の精神」の涵養を図る。	・集団生活において、他者を思いやることができる道徳的精神や人権尊重の意識や行動力、判断力を身に付けさせる。			
		令和8年度近畿・中国・四国寮生サミットの事務局校として、入念な準備を行う。	・寮生会を中心に運営面において、教員主導の取組にならないよう生徒たちが与えられた役割を遂行できるように自覚と責任を持たせる。			
第1学年部	指導方針	高校生活の基盤となる 基本的生活習慣・学習姿勢の定着	・高校生活への円滑な移行を支援するため、「できて当たり前」を丁寧に共有し、HR・授業・学校生活のあらゆる場面で統一感のある指導を行う。挨拶、時間厳守、授業規律、身だしなみ等について、学年・教科・分掌が連携し定着を図る。学習への向き合い方（提出物・家庭学習・振り返り）を具体的に示し、学びの基礎を固める。			
		自分と他者を大切にし、安心して過ごせる 人間関係づくり	・安心して過ごせる学年集団の形成と人間関係づくりを進める。 ・生徒が「ここにいてよい」と感じられる学年集団を目指し、日常的な声かけと計画的な指導を通して、良好な人間関係の構築を支援する。 ・HRや学年集会を通して、互いを尊重する姿勢や言葉の大切さを繰り返し伝える。 ・SNSに起因するトラブル防止のため、人権学習や具体的事例を用いた啓発を行う。			
		失敗を恐れず挑戦し、学びに向かう 自己肯定感の育成	・生徒指導案件の未然防止と、落ち着いた学習環境の整備を図る。 ・生徒が安心して学習に集中できる環境を守るため、小さな変化を見逃さず、早期対応・予防的指導を重視する。 ・SHRや日常指導の中で、規範意識や集団生活の意味を丁寧に伝える。 ・関係分掌・保護者・関係機関と連携し、生徒を見守りながらつまずきの解消を図る。			
		将来を見据え、自ら考え行動する 土台づくり（キャリア意識の芽生え）	・将来につながるキャリア意識の芽生えを育てる。今後の学校生活や進路を見据え、「自分はどうありたいか」を考える機会を多く設け、主体的に行動しようとする姿勢の育成を目指す。 ・HRや日々の声かけを通して、努力することの意味や失敗から学ぶ姿勢を伝える。学校行事やクラス活動に主体的に関わらせ、小さな成功体験を積み重ねる。			
第2学年部	指導方針	各分掌間の連携を密に行い、生徒指導案件の未然防止と基本的生活習慣及び社会人基礎力、学習習慣を定着させ、全員で進級・卒業を目指す。	各コース・生徒指導部・寮務部などと生徒情報を共有し、生徒の指導における初動対応を迅速に行い、保護者とも協力して生徒の現状把握と問題行動の未然防止、進級に向けて成績の向上等の指導を行う。			
		集団の一員として責任ある行動をとる態度を育成する。	・大きな行事は生徒たちの「信頼」で成り立つことを学年集会等で指導し、信頼される学年になれるように努める。 ・修学旅行の成功に向けて時間・ルールを守る日常指導を通して、集団としての行動力を高める。			
		進路意識の早期形成をさせる。	・定期的な面談等で進路の意識付けや目標設定のサポートを行う。 ・修学旅行後のLHRを進路へ切り替えの場として活用する。			
第3学年部	指導方針	全員の希望進路実現を目指す。	・担任団だけでなく、他分掌や保護者との協働によって指導に統一感を持たせ、生徒一人一人に合わせたタイミングで効果的にアドバイスを行い、全員の希望進路実現を目指す。 ・進路に関するHRや毎日のSHRを利用し、キャリアプランの醸成に努める。 ・進路HRだけでなく、個人の持つ可能性を広げられるよう、他分掌や保護者と協力して生徒自身の希望進路へ挑戦できる環境を整える。			
		各分掌間連携を密に行い、基本的生活習慣及び社会人基礎力の定着を図る。	・社会人になることを意識した生活・進路指導を定着させるために、「できて当たり前」の姿勢でHR・授業・寮・コース・課外活動で統一感のある指導を行う。 ・日々の挨拶、授業規律、時間厳守の徹底、好感の持てる服装・態度など各教科・分掌との連携により定着を目指す。 ・課題生徒に係る各諸機関との連携による状況把握に努め、生徒を見守り励ましながらつまずきを解消するべく、保護者と生徒が自己肯定感を高めることのできる指導を模索する。			
		生徒指導案件の未然防止と、質の高い学習空間の提供を図る。	・生徒が安心して授業を受けることができ、学習に対する充実感・達成感を味わう環境整備を行うために、計画的・継続的な生徒指導を積み重ねる。また場面場面で人間形成に資する訓話を行う。 ・未然に生徒指導案件を抑制するために、SHR等で担任・副担任による訓話を行い、規範意識の高揚を図る。また他人の「学ぶ権利」を侵害することは重大な人権侵害に当たることを認識させる。 ・軽率な言動から起こる生徒指導案件を減らし、良好な人間関係を築かせるために、人権学習や学年集会の場を最大限活用し啓発を行う。			
		学校行事の成功に向けた集団力の向上と、最高学年としてリーダーシップ力の向上を目指す。	・学校全体や学校行事の最高学年として、どの行事もリーダーシップを意識して参加していけるよう、集団力を意識した学年づくりを目指す。学年集会や学年LHRなどを活用し、集団力を向上させる。			